

今、「子どもたちの安全を守るために地域ぐるみで行動したい。子どもと地域の大人が毎日学校や地域で顔を合わせ、声をかけ合うことから地域の再生の第一歩としたい」など、社会の宝である子どもたちを守りたいという声が地域に溢れています。京都ならではの地域ぐるみの取組が広まり深まっており、感謝の気持ちでいっぱいです。

近年、学校そして地域における事件・事故が大きな問題となっており、昨年11月に奈良市で児童の幼い命が奪われ、また、本年2月に寝屋川市の小学校で教職員が殺傷された事件は記憶に新しいところです。

学校・園における事件・事故の発生を防止し、子どもと学校・園の安全を守るためには、学校や地域の実情等に応じた学校の安全管理体制の確立や教職員の危機管理能力の向上を図るとともに、家庭や地域社会との日常的な連携・協力が大切です。

これまでから学校・園におきましては、独自マニュアルの作成や毎月の安全点検、防犯研修、さらには学校安全主任の配置等を通じて、教職員全体が共通理解を図り、安全管理の徹底と防犯教育の充実に努めるとともに、保護者や地域の方々、警察等関係機関と連携・協力しながら、子どもを守る様々な取組を展開しているところであります。

本市におきましても、開かれた学校づくりと学校・園の安全確保は両立し得るとの理念の下、安全管理体制の確立に努め、各校・園のニーズに応じた防犯機器等の整備、教職員向け学校安全の手引・別冊の作成や学校管理状況（防犯対策）チェックリストの点検項目の改訂等、ハード・ソフト両面にわたる安全対策を進めてまいりました。

また、昨年4月には学校やPTA、さらには人づくり21世紀委員会の代表者等の参画を得て、「京都市子ども安全会議」を発足させ、公用車への安全ステッカーの貼付や各家庭において親子で話し合っていたいただくためのリーフレット「子どもが事件や事故にまきこまれないために」の配布等、地域ぐるみで子どもたちの安全を守る具体的な取組を進めています。

このたび、このように学校・家庭・地域が一体となって子どもの安全を守る新しいコミュニティの構築が進む中、校内はもとより、登下校時も含めた子どもを守るための各校・園や地域の創意工夫溢れる取組を集約し、新たに「子どもの安全確保 学校・園防犯実践事例集Ⅱ」としてまとめました。本事例集を参考に、学校・園・PTA、各種団体をはじめとする関係者の皆様が、子どもと学校・園の安全を守るために何が出来るか知恵を出し合っていたいただき、地域ぐるみで子どもを守る取組を今後一層推進していただくことを願っております。

平成17年3月

京都市教育委員会  
教育長 門川大作

既にご存知のように、大阪府寝屋川市の小学校において、またもや教育現場が犯罪の標的となり、尊い命が奪われる事件が起きてしまいました。4年前、大阪教育大附属池田小学校児童殺傷事件が起きて以来、この数年、私たちは子どもの命に関わる様々な事件を直視し、それぞれを教訓としながら、早急に安全対策を講じ、徹底した子どもの安全確保のための取組を進めてきました。しかし、その一方で、なぜ最も大切に守り育てられるべき幼い命が犯罪の標的にされるのか、なぜ最も無防備でよいはずの「学校」がこれ程までに安全管理体制を整えなければならないのか、強い憤りと同時に、その最も根本的な問題を解決しなければ、これ以上、先へと進めない焦りを常に感じ続けてきたのも事実です。

この度、この冊子に収められた各校・各園の実践事例は、各学校、各園、保護者、地域の皆さんが、子どもたちを守るためにどうしていけばよいのか、何が問題になっているのかを膝を寄せ合って話し合い、その解決へ向け行動された生きた実践の集大成です。そして、それは単に「防犯」という範囲に止まらず、地道な実践の過程の中で、人と人の絆をつくり、決して犯罪を生み出さない社会づくりへと繋がっているように思えます。そして、また、子どもたちを懸命に守ろうとするその姿は、身をもって、次の次代を担う子どもたちに命の尊さを教え、大人が社会に果たすべき役割を伝えていると思えます。

犯罪が起こるたびに、その解決策をより厳重な物質的セキュリティに向けるのではなく、いかにそれを取り外して行ける社会を創っていくのか、人づくり21世紀委員会としましても、今後とも、そのことが私たちに求められている大きな課題だと考えます。子どもは社会の財産であり、大切な後継者でもあります。その後継者たちがのびやかに成長できる社会を目指し、一人一人ができること、家庭で、地域で、各種団体でできること、そしてお互いに繋がりあいできることを積極的に行動に移し、共に頑張っ参りましょう！どうぞよろしくお願いいたします。

平成17年3月

人づくり21世紀委員会

幹事長 久保田 真由美

平成13年6月に起きた、大阪の附属池田小学校の事件を受けて、同年6月に当時も中学校PTA連絡協議会長でありました私と、小学校PTA連絡協議会の代表等と一緒に、市役所に榊本京都市長を訪ね、学校・園の正門に防犯カメラとセンサーの設置をお願いに参りました。財政逼迫の折りではありましたが、子どもの安全には代えられないと、それは早急に実現致しました。

また、今年度は各校PTAのホームページの立ち上げと、そこから不審者情報等を登録されている携帯電話やパソコンに配信できるシステムを構築する初期費用の予算化をお願い致しました。

もちろん、このようなことだけで子どもの安全が守れるわけではありません。

伏見区の小学校事件以来、幸い京都市域では大きな事件の発生はありませんが、昨今の報道などを見る限り、それはどこで起こっても不思議でない状況の中にあります。

私達の未来を託すべき子どもたちの安全は、学校やPTAのみの願いにとどまらず、地域社会全体の願いであります。そのようなお考えのもと、地域の皆様には従前よりのパトロールに加え、登下校時の子どもを見守っていただくなど、熱心にお取り組みいただいております。

学校でも子どもたちに防犯ベルを持たせるなど、また、子どもたち自身に校区内の安全マップを作らせたり、安心・安全の講習を開いたりするなどして、子どもたちの意識向上を図っておられます。

さらに、以前よりPTAと警察で取り組んでおりました「こども110番の家」も、コンビニチェーンなどの参加もあり、その数を増やしつつあります。

学校、PTA、地域、警察、それぞれが様々な取組をしておりますが、いずれも一つの組織で子どもの安全を守ることはできません。すべての子どもの安全を願う人達が有機的に連携してこそ、その目標を達せられるものと思います。

皆々様の御協力をよろしくお願い致します。

平成17年3月

京都市PTA連絡協議会  
会長 松井 憲昭

# 目 次

## 1 P T A ・地域との連携による取組

### (1) 登下校時の校門付近での安全確保

家庭や地域との連携による登降園の安全確保	〈深草幼稚園〉	・・・	P 1
子どもの安全・まちの安全は地域で守ろう	〈山階小学校〉	・・・	P 2
無理なく、長続きする安全確保の活動	〈梅津北小学校〉	・・・	P 3
人と人とのふれあいから安全確保へ	〈納所小学校〉	・・・	P 4
不審者侵入防止マニュアルをもとにした安全対策	〈伏見工業高校定時制〉	・・・	P 5
地域と一体化した不審者侵入の防止体制	〈北総合養護学校〉	・・・	P 6

### (2) 通学路等の安全確保

巡回パトカーとの連携による子どもの安全確保	〈雲ヶ畑小中学校〉	・・・	P 7
放課後及び夜間の子どもの安全	〈山王小学校〉	・・・	P 8
長く続けられる子どもの安全確保	〈大原小学校〉	・・・	P 9
地域との連携による犯罪抑止につながる活動	〈嵐山小学校〉	・・・	P 10
「子どもは地域の宝」下校時の立ち番を各町内で	〈山ノ内小学校〉	・・・	P 11
桂徳スクール・ヘルパー実行委員会を設置	〈桂徳小学校〉	・・・	P 12
地域で見守る「安全・安心の街づくり桂坂」	〈桂坂小学校〉	・・・	P 13

### (3) 安全確保のための研修会

危機意識を学校・家庭・地域で共有	〈石田小学校〉	・・・	P 14
------------------	---------	-----	------

## (4) 地域のネットワークの充実

学校・家庭・地域のネットワークと取組	〈紫野小学校〉	・・・	P15
スマイル21プラン委員会と安全の取組	〈高倉小学校〉	・・・	P16
地域の子どもは地域で守ろう	〈修学院第二小学校〉	・・・	P17
地域ぐるみで子どもを守る	〈稲荷小学校〉	・・・	P18

## 2 子どもの安全意識を高揚させる取組

関係機関との連携による子どもの安全確保	〈正親小学校〉	・・・	P19
地域での顔見知りを増やす「声かけポスター」	〈洛央小学校〉	・・・	P20
白川キッズ「あんぜんたい」の活動	〈白川小学校〉	・・・	P21

## 3 子どもの自主的な活動による取組

老人クラブ連合会との連携による学校の安全	〈八条中学校〉	・・・	P22
地域の住民活動と生徒会との連携	〈修学院中学校〉	・・・	P23

## 4 資料

安全マップの参考例

京都市子ども安全ネットワークニュース等

編集後記

# 家庭や地域との連携による登降園の安全確保

～大切な子どもの生命と安全を守る～

深草幼稚園（学級数 2 園児数 49）

## 1 安心・安全上の地域の様子

幼稚園周辺は民家に囲まれた閑静な町並みであるが、一歩大通り（本町通り・師団街道）に出ると交通量の多い地域である。JRや京阪電車の踏切もある。

稲荷山や七面宮など東に面し四季折々におりなす自然が残っている中、観光客も多く賑わう。南に面した園庭からは、フェンス越しに道行く人が見え、子どもたちの戯れる姿がよくわかり防犯にもつながっている。



・門にはいつも教職員2人体制でのぞむ。

### ②降園時の安全

・声かけ運動の実施

降園時「さよなら」「きをつけてね」とあいさつをして安全確保を図る。



・門には教職員が立ち、園に入る人、出る人、保護者の確認を担任とともにチェックする。  
・子ども自身が自分の身を守る力がつくように生活の中に取り入れる。

## 2 取組の概要

### (1) 取組の趣旨

登降園時の子どもの事件・事故が増加している中、園内体制のさらなる確立を図ることを目的に、従来の取組を見直し、新たに取り組む内容も含め、教職員が中心となり、危機管理に徹底した取り組む姿勢をもち、PTAと協力して、地域と連携をとりながら、子どもの安全を図っていくこととした。

### (2) 取組の内容及び方法等

#### ①登園時の安全

・声かけ運動の実施

登園時「おはよう！」「おはようございます」と朝のあいさつをするとともに、安全確保を図る。

・防犯ベルや笛をもち不測の事態に備える。  
・未就園時の保護者やPTAが協力し合い、教職員と共に安全確保に努める。

### 3 実践の成果と反応、課題等

・幼稚園だよりの地域版を回覧し、幼稚園生活に関心をもっていただくようにしているが、さらに回数を増やし浸透していくようにしていく。  
・教職員が不測の事態に直ぐ対応できるように目立ったところにマニュアルを貼り、自分の役割を確固たるものにした。  
・参観・地域行事などの時は必ず名札を着用するなど協力体制が深まった。  
・保護者との情報や連携を密にすることにより安心・安全に対する意識の高揚につながった。  
・子どもの安心・安全は、地域や保護者・教職員の目配り・気配り・心配りが大切である。

# 子どもの安全・まちの安全は地域で守ろう

## ～ 山階校区安全みまもり隊 ～

山階小学校（学級数 14 児童数 282）

### 1 安心・安全上の地域の様子

山階学区は、山科地域の中心部に位置し、往来する人や車両も多い。また、一方で、東西本願寺山科別院、蓮如上人廟など人気が少ない一角もあり、その周辺で不審者による児童の被害が出ている。さらに安全面での注意を要するのは、本校の近くに建つ団地の周辺で、これまでも不審者が度々出没し、児童が被害にあっている。そのため、登下校時の交通安全指導と児童の生活安全を見守る活動が必要な地域である。

### 2 取組の概要

#### (1) 取組の趣旨

山階学区では、これまで三世代交流を図る学校教育の推進やPTA行事の取組に力を入れてきている。その成果が現れ、自治連役員を初めとする多くの人々と、児童、保護者、教職員との交流や連携が盛んになり、地域教育への関心が高まってきている。

昨年度、宇治市において再び子どもの安全を脅かす事件や、また、校下での強盗事件発生等がきっかけとなり「子どもの安全とまちの安全は地域で守ろう」との呼びかけが防犯推進委員会からなされ、「山階校区安全みまもり隊」が発足した。

#### (2) 取組の内容及び方法等

##### ①登校時の安全

「朝のあいさつ」トレードカラーはオレンジ

朝7時45分、オレンジ色の制服を着た“みまもり隊”の隊員方が山階校正門前に集合。緑の帽子も目を引く。赤い発光棒を携えて集団登校する子ども達の見守りに出発。交通規制を守らない車への呼びかけ、危険な交差点での安全指導に7～8名の隊員が活動。朝の挨拶を子ども達と元気に交わされる。月1回の校区安全パトロールも実施。

##### ②下校時の安全

「下校時はみまもり隊と楽しいふれあい」



下校時は、午後1時ごろから活動が始まる。昼休みの時間や掃除時間の不審者侵入防止も念頭に入れ、正門前に隊員方の姿が増えていく。午後2時半頃、低学年が下校。その時間は、子ども達とみまもり隊との心の交流の時間。楽しいおしゃべりに盛り上がり、「今朝は、元気がなかったね。どうしたのや。」「うん、もう元気になったよ。」「きょうのクイズはなに？」と、打ちとけた会話。正門での見送りと共に横断歩道の誘導も欠かさずしてもらっている。

### 3 実践の成果と反応、課題等

- ・活動が始まって約1年、登下校時の子ども達の安心した表情が印象的である。
- ・朝と午後のオレンジ色の制服姿がかなりの抑止力となり、今年度になって不審者の出没が減ってきている。
- ・この活動により、保護者と地域の方々との相互理解が深まり、学校、PTA、地域の防犯活動強化に協力体制ができた。
- ・ボランティア活動として発展するための協力者の拡大と活動充実のための資金の捻出を検討してもらっている。

# 無理なく，長続きする安全確保の活動

～学校安全対策委員会「見守りボランティア」～

梅津北小学校（学級数 15 児童数 437）

## 1 安心・安全上の地域の様子

地理的には、校区のほとんどが住宅地で、入り組んだ細い道路や、駐車場、街灯設備の無い有栖川沿いの通路など人の目が届きにくい憂慮すべき場所が数多くある。

地域住民は、古くからの住民を中心に人間的な繋がりも深く、子どもたちの安心・安全に対する意識も高く、また大変積極的で協力的でもある。

## 2 取組の概要

### (1) 取組の趣旨

学校や通学路における児童の安全確保の問題が大きな関心と呼んでおり、梅津北小学校区でも地域が協力して、子どもたちの安全を守っていかうという機運が高まった。そのシンボルともいえる「梅津北パトロールボックス」が南門前に完成した。これを契機に、地域全体に「見守りボランティア」を呼びかけ、子どもたちとのふれあいを深めながら、尚且つ子どもたちを地域全体で守って行こうという趣旨でこの活動が始まった。

### (2) 取組の内容及び方法等

この活動を実施するに当たって、まず地域の有志の方々によって南門前に「梅津北パトロールボックス」が完成。次に活動を地域に広げるための母体として「学校安全対策委員会」（地域の主な各種団体から15名程度）を数回の準備会の後、立ち上げた。その中で、無理なく、長続きする活動を目指し、地域に「見守りボランティア」を募集した。募集に対して約80人の応募があり、説明会を実施、趣旨を理解してもらって実際の活動に入った。

見守り活動は、それぞれの事情により、毎日、2日に1回、週に1回、あるいは、できるときだけ、というようにそれぞれ無理のない範囲でのものとなっている。

#### ①登校時の安全

登校時は、集団登校を実施しており、登校班にはPTAの地域委員が付き添っている。

「見守りボランティア」は、自宅近くの通学路（毎日10人から15人）や、交通安全上危険な場所（毎日4人から6人）、本校の南門

や東門（両方で5人から8人）に立ち、子どもたちに安全を呼びかけたり、明るい朝の挨拶をしたりしている。また、自転車で、集団登校の集合場所に行って声をかけたりしている。



#### ②下校時の安全

下校時は、下校時間にばらつきがあるため、2時30分から下校時刻（夏期4時半、冬期4時）に毎日3人から5人の方々が「パトロールボックス」に詰めて、子どもたちに「さようなら」の声かけをしている。また、「見守りボランティア」の方々は、自宅前の掃除、水まき、犬の散歩の時間を下校時刻に合わせてさりげなく、無理のない形で子どもたちを見守っている。



## 3 実践の成果と反応、課題等

子どもたちとのさりげないふれあいの中から交流も広がり、あちこちで、挨拶を交わす姿が見られるようになった。また、地域の活動としての地盤が固まった。

今後、どのようにしてボランティアを増やすのか、若い層に活動に加わってもらうにはどうしたらいいのか、ボランティアの方々の活動時の保険加入などの活動資金の問題など、課題も多いことは事実である。



# 人と人とのふれあいから安全確保へ

## ～キッズサポートデー・学校にいこう～

納所小学校（学級数 13 児童数 329）

### 1 安心・安全上の地域の様子

本校は校区の中央を京都と大阪を結ぶ交通量の多い府道が通っている。校区内の他の道路は道幅が狭く歩道が整備されたところは少ない。また、桂川や水路があり、子どもたちにとって危険な場所も見られる。

昔ながらの田畑や河川敷、広大な京都競馬場の駐車場など、昼間でも人通りの少ない場所も多く見られ、子どもたちの安全上気にかかる場所もある。

### 2 取組の概要

#### (1) 取組の趣旨

子どもたちの集団登校時の安全確保を第一の目的とし、人と人とのふれあいの第一歩であるあいさつの習慣づけ、地域の保護者と子どもたちの交流を深めることをめざす。

子どもたちと地域の保護者がお互いに声をかけ合いふれあうことで、地域社会で子どもたちを見守っていくきっかけとしたい。

#### (2) 取組の内容及び方法等

##### ①家庭との連携

平成13年6月の大阪教育大学附属池田小学校での事件をきっかけに保護者が今まで以上に、子どもたちを見守っていこうという機運が高まった。おりしも学校では体育学習で水泳指導が始まる時期であったので、子どもたちがプールの更衣室で着替え中、校門のところで立ち番を始めたことがこの取組の出発点となった。

その後、PTA本部役員会・運営委員会で学校での子どもたちを守るために保護者が少しでもできることがないかと話し合いを重ねた結果、保護者が輪番で登校時・中間休み・昼休み・下校時、学校の教職員と共に校門の前に立ち、子どもたちを見守ることを始めた。そのことにより、学校への不審者の侵入の抑止力となると考えている。



##### ②キッズサポートデー

大阪教育大学附属池田小学校事件の直後ということもあり、保護者の関心も高く、毎日多くの参加があった。子どもたちも安心して学校での生活を送っている様子が見られた。

2学期になり登校時に校門前で子どもたちを迎える「校門立ち当番」という名称をつけ取組を続けた。1学期に比べ参加人数はいくらか少なくなっていたが定着した取組となった。

平成14年度になり防犯設備の整備等の状況を踏まえ、今までの取組を見直すこととした。



本部役員会・地域委員会などで長く続けられる取組にするために意見を出しあった結果、毎月第1・3水曜日に「キッズサポートデー・学校にいこう」というスローガンを掲げ、地域委員を中心に時間に都合のつく保護者が子どもたちの集団登校場所に集まり、一緒に登校し、校門前で全校児童が登校するまで「おはようございます。」の声かけを行ない、子どもたちを見守る取組を始めた。

### 3 実践の成果と反応、課題等

この取組を始めたことで、保護者からは納所小学校の児童と親しくなれた、道で出会ってもあいさつしてくれた等の声が聞かれ、保護者が地域の子どもたちを見守っていこうという思いが定着してきた。

また、子どもたちも困ったことがあったら気軽に他の保護者にも声をかけることができるよう



になり、子どもたちの安全を守るという効果も見られた。今後もこの取組を充実し、発展させ、全保護者、地域ぐるみで納所小学校の子どもたちを見守っていききたい。

# 不審者侵入防止マニュアルをもとにした安全対策

## ～ 不審者への対応について～

伏見工業高校定時制（学級数 14 生徒数 324）

### 1 取組の概要

#### (1) 取組の趣旨

本校では数年前に大事には至らなかったものの不審者が校内に侵入したことがある。また、生徒とトラブルをおこしている部外者が侵入してくることもあり、不審者への対応についてマニュアルを作成して全教職員に指導、徹底を図っている。

授業の時間帯が夜間であるため、暗い場所も多く、校内外の不審な情報については、全教職員の連絡を密にし、迅速に情報収集するよう努めている。

本校のすぐ近くに砂川交番があり、校内外の不審者について連携を密にして、問題が発生した時には詳細を記した書面で依頼に行くこともある。

登下校時、及び休憩時間帯には当番制で校門立ち番を実施している。

#### (2) 取組の内容及び方法等

##### ①不審者への対応について

- ・必ず、複数の職員で対応する。
- ・挙動が不審な人物を発見した場合、用件を聞き、関係がない場合は、入校を認めない旨を話し退去を願う。
- ・もし、生徒や職員に危害の加わる事態が予想されるか、危害が発生した場合は、これの排除に全力を尽くす。
- ・通報としては、校門であれば、門衛室の緊急ブザーを押し、職員室に知らせる。

（大きいベルがなる。）

また、ワイヤーレス報知器が校長室、事務室、保健室、管理用務員室にある。

- ・不審者が退去に応じない場合、複数の職員

の一人が校長室に連絡を取り、確認をした上で砂川交番に連絡を取り、出動を求める。



門衛室の緊急ブザー

### 2 実践の成果と反応、課題等

本校では、生徒に関わる部外者が来ることが多く、教職員の関心は高い。

また、昨今の子どもに対する事件・事故の状況を考え、マニュアルを周知し、浸透させることで、危機意識や防犯意識が高くなったと思われる。

今後の課題としては以下のような点が考えられる。

- ・学校の特色上、小中学校のような地域との連携が困難である。
- ・夜間特有の問題点について、もう少し検討が必要と考えている。
- ・下校指導について検討が必要。
- ・マニュアルは対応や行動についての内容が主で、実際に粗暴な不審者と応対した時の護身方法や対処（被害を防ぐ）についての検討が必要。

# 地域と一体化した不審者侵入の防止体制

## ～学校生活を守る不審者侵入防止対策～

北総合養護学校（学級数 43 児童生徒数 151）

### 1 安心・安全上の地域の様子

本校の位置する「成逸学区」は、住民福祉協議会が中心になり、「福祉の街 防災・防犯の街づくり」を掲げ、外灯を点けて学区全体を明るくし、防犯・防災に積極的に取り組んでいる。この夜間外灯点灯運動でも伺えるように「自分のまち 自分で守ろう」という、防犯・防災意識が高い地域である。

本校はこの成逸学区の東南の隅にあたり、堀川通りに面し、上御霊通に接するところに建っている。

### 2 取組の概要

#### (1) 取組の趣旨

学校が絶対安全な場所で無くなった今日、都市型の総合養護学校である本校周辺は、交通量や人通りも多く、子どもたちの事件・事故防止については、学校とPTAのみならず、地域と連携して取り組む必要がある。また、地域の人たちも、学区の公共施設としての本校の安全には多大な関心を払っている。学校評議員からのアドバイスやPTA本部役員会との話し合いで、子どもたちが学習している昼間、学校・PTA・地域の連携のもと、地域ぐるみで不審者の侵入を防止するための徹底した取組を実施することにした。

#### (2) 取組の内容及び方法等

##### ①学校の出入り口門扉の閉鎖

本校には、自主通学、スクールバス通学、自家用車通学、タクシー通学の子どもが在籍している。3箇所ある門のうち、堀川通りに面した正門は、登校時間及び下校時には門扉を開放しているが、それ以外の時間は閉鎖し、学校関係者以外の無断の出入りができないようにしている。また他の2箇所については、子どもが校内で学習している昼間は閉鎖している。

##### ②門番の常駐

登下校時間以外は正門の門扉を閉鎖している関係で、来校者対応については、管理職と

スクールバス乗務員が交代で門番をしている。門番には、教頭と副教頭が30分交代で立ち、スクールバスの運行時間以外はバス乗務員が交代で立っている。これは、来校者の案内を目的としているが、同時に不審者の校内侵入を防ぐ効果がある。

##### ③来校者名簿の記入と名札の着用

来校者については、正門脇の詰め所で受付名簿に「氏名と来校目的」を記入し、「来校者」の名札を着用する。退出時には、退出時間の明記と名札の返却をお願いしている。たとえ顔見知りの地域の方であっても同じようにしている。

##### ④保護者の名札着用

保護者については、子どもの名前を書いた名札を渡し、保護者保管とし、来校時にはたとえ送迎の短時間であっても必ず名札の着用を徹底している。忘れた場合は、来校者と同じ手続きを行い、「保護者」の名札を着用するようにしている。



### 3 実践の成果と反応、課題等

保護者の名札については、参観日等ではほぼ全員に近い保護者が名札を携帯するようになってきた。また、門番の常駐により、通行される地域の方々と学校関係者の馴染みも深まり、地域の方に学校の取組が見えやすくなってきている。そのことで地域と一体化した「防犯体制」を築いていくきっかけとなっている。

# 巡回パトカーとの連携による子どもの安全確保

## ～雲ヶ畑地区メロディーパトロール隊～

雲ヶ畑小中学校（学級数 7 児童・生徒数 14）

### 1 安心・安全上の地域の様子

山に囲まれた山間の細長い地域である。近年駐在所が廃止され警察のパトカーによる巡回はあるものの、人通りが少なく民家も点在して少なく、万一の場合に声をかけにくい状況である。普段はひっそりとしているために安全防犯上での不安な声が多くなっている。さらに、通学路は川沿いで足を踏み外せば川に転落する危険も起こりやすい状況である。



### 2 取組の概要

#### (1) 取組の趣旨

通行の少ない山道であり、以前下校の途中で不審な車から子どもが誘いの声をかけられたことがあった。保護者地域から不安な声があがり、学校においては登下校の際には集団で行い、上級生は下級生を見守りながら行動するよう指導を繰り返している。また、保護者や地域の方に依頼して、登下校時の声掛けや見守りを協力して行っている。さらに警察に依頼して、巡回パトロールの回数をできるだけ増やしてもらうようにして未然に事故や事件の防止に取り組んでいる。

#### (2) 取組の内容及び方法等

##### ①防犯意識向上に向けて

夏休み前に上鴨署と相談し、現在唯一の公共交通機関であるバスが音楽を鳴らして走行していることにヒントを得て、警察の巡回パトロールもメロディーを鳴らしてはどうかということになり、地域にもなじみの深い校歌を鳴らして巡回することになった。

児童・生徒にも十分理解を深めさせて、子どもたちには楽しさの中にも安全意識の向上に役立っている。

##### ②登下校時の安全指導について

普段の安全指導として、山道を20分あまりかけて登下校しているので、年度当初には地域保護者に登校の時間や集合場所を決めてお知らせを出している。町別毎に近くの友だちから誘い合って集団で順に全員が登校するように指導をしている。下校時は、小中まとまって下校しにくいのが、1人歩きはせずに複数で帰宅するようにしている。どうしても1人になることがあると保護者との連絡をとっている。クマ等の出没情報があれば緊急の集団登下校対策をしばらくの間って教職員の引率のもとで下校している。

### 3 実践の成果と反応、課題等

メロディーを鳴らしての巡回パトロールは、子どもたちは勿論のこと保護者や地域の人も「とてもいいアイデアで曲も騒がしくなくて雲ヶ畑地域の雰囲気にとってもあっている。」「家の中にも聞こえてくるので地域ぐるみの安心感がある」と好評であり、もっと回数を多くしてほしいと言われている。

近年、道路整備がよくなってきたせいも、やや交通量が多いので不審者への危機意識を徹底しなければならない。

# 放課後及び夜間の子どもの安全

## ～ P T A パ ト ロ ー ル 隊 ～

山王小学校（学級数 8 児童数 120）

### 1 安心・安全上の地域の様子

本校は、京都駅の南に位置し、旧来の住宅街とビジネスホテルや地下商店街等の施設が共存している地域であり、買い物客や旅行者など地域内外を問わず日常的に多くの人の通行がみられる。

登下校時はもちろんのこと放課後、長期休業中等における児童の安全確保を願い、定期的に地域パトロールを行っている。

### 2 取組の概要

#### (1) 取組の趣旨

上記のような地域実態から、子どもたちの放課後の安全を確保しなければならないこと、また、夜遅くなってもにぎやかな本校区においては、夜間の安全も確保するために学校・PTA・地域が連携して取組を推進することが必要であるという共通した認識をもとに実施している。

#### (2) 取組の内容及び方法等

PTAと教職員が中心となり地域諸団体と実行委員会を組織して、実施時期・時間帯・重点地域・パトロールコースなどを具体的に話し合っている。実行委員会の決定をもとに、少年補導委員会と青少年育成協議会に協力を呼びかけると共に、実行委員会から案内文を作成し児童宅や地域に配布して広く地域住民に呼びかけている。

##### ①実行委員会常時活動

「こんにちは！声かけパトロール」

PTA地域委員会のメンバーを中心にグループを編成し、実行委員会であげられた、重点地域を中心に子どもへの声かけパトロールを実施している。

##### ②長期休業特別夜間パトロール

「地域・学校・PTA合同パトロール」



夏休みの始めと、地域で地蔵盆が行われる時期、冬休みは年末に実施している。

この時期は、子どもたちに家庭の目が行き届きにくくなっているため、特に地域住民にも広く呼びかけ、重点的に実施している。

### 3 実践の成果と反応、課題等

本校区には、京都駅周辺を中心とした繁華街があり、夜でも昼と同じような明るい場所がある一方、一步路地にはいるとかなり暗い場所もある。夜間にパトロールを行うことで小学生を指導することはほとんどないが、PTAを中心としてマイクで呼びかけを行うことが、子どもにとっても家庭にとっても安心感を与えるとともに、抑止的な効果が多いと考えられる。また地域の団体にも呼びかけることで、校区全体として子どもの安全に対する意識を高めることにつながっていると考えている。「何もなくて当たり前」ということを共通理解して、今後も取組を継続していきたい。

# 長く続けられる子どもの安全確保

～自治会、PTA、区役所出張所、みんなで子どもを見守る大原～

大原小学校（学級数 7 児童数 65）

## 1 安心・安全上の地域の様子

大原小学校の位置する大原地域は、京都市の風致地区指定地で、1年を通して多くの人々が訪れる観光地であるが、道路沿いには土産物店や民家が並び、子どもの姿は地域の方の目につきやすい状況である。

また、校区の北にあたる2町からは、バス通学をしており、通学途上で不審者に遭遇する可能性は低い。

## 2 取組の概要

### (1) 取組の趣旨

子どもが犠牲となっている事故・事件が続発している中、学校が中心となってPTAや自治連合会をはじめ、地域のあらゆる人々との連携のもと、一時だけでなく、長く続けられる方策として一緒になって考えることにした。

### (2) 取組の内容及び方法等

#### ①いきいきクラブの取組

登下校時の交通事故を含めた、子どもの事故や誘拐等の事件が全国的に頻発する中、子どもの安全確保について、自治連合会に相談したところ、まずは、いきいきクラブ（地域



の老人会)の皆さんに、散歩の時には腕章(大原地域安全と印字)をつけていただくことになった。

この取組は、特に時刻を決めて歩いていただくというのではなく、散歩時に腕章を巻いて歩く姿を見せることにより、不審者への抑止力となると考え実践していただいている。

#### ②PTAと関係機関との連携

PTAでは、集団登校時の集合地点での指導や国道での安全誘導を行っている。

また、区役所出張所職員の方には、バス停でバスを待つ子どもの様子に気を配っていただいたり、駐在所巡査には、毎朝国道での安全誘導をしていただき、校区内のパトロールも強化してもらっている。そして、パトカーで頻繁に地域をパトロールしていただいていることは、子どもの安全のために心強いものである。



## 3 実践の成果と反応、課題等

これらの取組は、毎日継続して実施していただいております。今後も長く続けていただける取組と思っている。

同時に、地域全体の安全や防犯意識の向上につながっている。

# 地域との連携による犯罪抑止につながる活動

## ～子どもの安全を守る安全パトロール～

嵐山小学校（学級数 17 児童数 461）

### 1 安心・安全上の地域の様子

本校は名勝嵐山の東に位置し、落ち着いた雰囲気そなえた地域にある。自治連合会・各種団体も学校を中心に活発に活動され、各種行事を催すなど地域で子どもを見ていこうとされており、学校教育に大変理解がある。早朝の交通整理や登下校時の声かけなど、日ごろから関心の高い学区である。

### 2 取組の概要

#### (1) 取組の趣旨

学校への不審者の立ち入りや、登下校において子どもが連れ去られることを防止するため、校内の安全確保やパトロールの強化につとめていたが、平成15年2月より高齢者（千歳クラブ）をはじめとする地域の諸団体に委嘱する「安全パトロール」を発足させた。

#### (2) 取組の内容及び方法等

##### ①活動の時間帯

- ・登下校の時間帯に、居住する町内の近辺や交通量の多い交差点などに出向いてパトロールにあたる。しばらく児童に同行したりして声かけをする。
- ・児童が学校にいる時間帯には週一回、学校花壇の整備に出向いていただいている。来校時には校門付近をはじめ周辺のパトロールにあたる。
- ・その他、散歩や買い物に出かける時、子どもたちを見かけた時に声かけをしている。

##### ②取組の方法

団体や有志の個人に学校より委嘱状を渡し、腕章と旗を貸与している。パトロールの際には腕章をつけて立っていただいている。



### 3 実践の成果と反応、課題等

パトロールの実施により、地域や家庭の安全に対する意識が高まった。犯罪抑止や交通安全の成果があがった。各種団体で取り組んでいるが、横の連絡を密にすることや通学路の全体を見てのパトロールの配慮など課題もある。

# 「子どもは地域の宝」下校時の立ち番を各町内で

## ～子どもを守る地域の協力～

山ノ内小学校（学級数 16 児童数 435）

### 1 安心・安全上の地域の様子

校区の三条通には、路面電車の京福電鉄嵐山線が走り、また葛野大路も広がって交通が大変激しくなり、交通面での危険な場所がたくさんある。また、葛野大路が御池通まで延伸される。

防犯の面では、最近「こども110番のいえ」が増やされたが、人通りのまばらなさびしい場所もあり心配である。

そのため、現在、地域をあげて交通安全、防犯に全力で取り組んでいる。

### 2 取組の概要

#### (1) 取組の趣旨

登下校時の子どもにかかわる事件や事故が増加している中、安全で安心な地域を目指し、学校はPTA、地域、各種団体と一体となって取り組んでいる。

『地域の子どもは地域で育てる』という考えのもと、地域が力を合わせ、子どもを守っていくということに取り組んでいる。

#### (2) 取組の内容及び方法等

##### ①登下校の安全

朝は、校区内3箇所をPTAと交通安全会が当番制で交通安全に取り組んでいただいている。

PTAは黄色の旗をもち腕章で、交通安全会はオレンジ色のヤッケに黄色の帽子でといういでたちで毎朝、交通安全指導を行っている。

PTAは子育てや仕事で忙しい中、子どもの安全を守るため、当番制で安全指導をしている。交通安全会は30年くらい前から校区の危険な箇所に立って安全指導をしている。

学校も地域やPTAの方と一緒に、校門で挨拶と安全指導を行っている。

##### ②下校時の安全

下校時は、山ノ内自治連合会の主催で下校時の立ち番を各町内で、また、町内合同で行っている。自治会長の『子どもは地域の宝や』の思いのもと、現在700人あまりが下校時の安全ボランティアに登録し、活動している。

山ノ内自治連合会という文字の入った赤い帽子をかぶって子どもたちを毎日、笑顔で見守っている。



### 3 実践の成果と反応、課題等

地域をあげて、交通安全、防犯のため登下校の安全に取り組んでいる。そのおかげでこの何年か、子どもを取り巻く問題は起こっていない。子どもたちも登下校、とくに下校時に地域の方がおられるということで、安心して下校している。

保護者も登下校時の安全指導には大変感謝している。学年によりまた子どもにより、下校時刻が違う中、長い時間下校の安全指導をしていただくのは大変なご苦労だと思っている。学校としては大変ありがたく感謝している。

小学生の子どもを持つ保護者は子育てや仕事で忙しく、どのように当番活動をうまく行うかが今後の課題である。



# 桂徳スクール・ヘルパー実行委員会を設置

～桂徳老人クラブ連合会・スクールヘルパー・PTA～

桂徳小学校（学級数 16 児童数 434）

## 1 安心・安全上の地域の様子

自然や田畑が残り、静かな住宅地域であったが、平成9年6月に桂川街道が開通して、頻繁に車両が往来するようになった。そのため、子どもをはじめ、地域住民の交通安全確保や不審者侵入防止が課題となってきた。毎年PTAの協力を得て作成する安全マップを地域配布しているが、必ずしも全戸に行き渡っていないのが現状である。京都府警桂署の管轄であるが、交番はない。

## 2 取組の概要

### (1) 取組の趣旨

桂徳老人クラブ連合会で、「平穏無事な学区であるが、何時何が起こっても不思議でないので、小学校の警備をしてはどうか」という意見がまとまり、平成15年10月に学校へ伝えにこられた。その結果、「桂徳スクール・ヘルパー実行委員会」を設置し、要領、規約、活動実施案等を作成し、ボランティアを募り、平成16年4月より本格的に活動を始めた。

### (2) 取組の内容及び方法等

#### ① スクール・ヘルパー

＜活動時間帯と場所＞

現在、スクール・ヘルパーの参加者は29名を数え、学校に常駐する時間帯として、午前・午後の時間（月曜日から金曜日は午前10時～12時30分と午後1時30分～4時まで）を設定し、警備している。

また、安全マップをもとに、学区を5分割し、午後2時から交替で自転車で巡回している。

下校時は、通学路を自転車で巡回するとともに、桂川街道横断の安全確保に立っている。

＜運営と携行品等＞

日々の取組となるため、スクール・ヘルパー予定表を作成し、参加者全員に配布して、活動日を明確にして警備にあたっている。

また、スクール・ヘルパーとして分かるように、活動時には帽子、腕章、たすきを身に付け、誘導灯、携帯電話を持つこととしている。

#### ② PTAの取組

校区内の交通量の多い7箇所に、各1名が毎朝集団登校時に立ち、子どもの安全確保を行っている。この取組は、全保護者が交替で取組んでいる。

また、自転車に「子どもを守る パトロール中」のステッカーを取り付け、地域を随時パトロールしている。



## 3 実践の成果と反応、課題等

防犯については、学校内外を中心に地域への巡回を重ねることにより、アピールと防犯意識の向上につながっている。また、学校を通じて警察や外部からの情報を伝えることで、巡回時に注意深く見回ることができる。

この取組をすることで、相互に顔や名前を覚えられ、休み時間や下校時に話し合えるようになってきた。また、ほとんどの子どもが挨拶をするようになり、よりよい人間関係を構築できるようになってきた。

1月からは、正門の見える校舎の一部をスクールヘルパーの待機場所として使用している。

# 地域で見守る「安全・安心の街づくり桂坂」

## ～子どもを守る「安全パトロール」～

桂坂小学校（学級数 25 児童数 804）

### 1 安心・安全上の地域の様子

「安全・安心の街づくり桂坂」を合い言葉にこれまで地域の環境整備が進められてきた。

本校は、16年前この地に造成された新興住宅地にある。現在も建築中の区画があるが、児童数は800名前後で推移している。通勤や買い物にはバスや自家用車が多く利用され、歩行者の数は比較的少なく児童生徒の通学や散歩程度である。歩道や緑道、公園など整備されているものの、夜の一人歩きは不安を感じる。

### 2 取組の概要

#### (1) 取組の趣旨

このところの学校をめぐる不審者の事例が物語るように、残念なことではあるがもはや学校は安全であると言えない状況にある。教職員による防犯体制の強化が求められることは当然であるが、学校・学区の安全は教職員の力だけで達成できるものではない。学校評議員及びPTAとともに対策を検討し、学校、PTA、地域・各種団体が連携し、地域の教育力を高め発揮していくことが、学校そして学区の安全を土台から支えることにつながることを確認する。

#### (2) 取組の内容及び方法等

##### ①登校時の安全(集団登校時の『旗当番』)

集団登校時の旗当番を学区全体で実施している。これは月曜日から金曜日まで、学校のある日は毎日実施され、児童の通学路に当たる横断歩道並びに信号機の設置されている横断歩道を地域ごとに会員1～2名ずつが当番制で担当している。PTAの地域委員が毎年当番表を作成し、保護者自ら子どもたちの登校時の安全確保に努めている。

##### ②下校時の安全(下校時の『安全パトロール』)

児童の下校時間帯を目安に、毎日～数日に1回。通学路、公園、緑道など地域の实情に即して巡回・監視するもので、当初は地域ごとに会員1～2名ずつ、意向調査に基づき当番制で実施していたが、本年度からは24時間みんなで地域の子どもたちを見守っていこうと

いう姿勢で、会員がいつでもできる時間帯に黄色い腕章、緑のたすき、安全プレートをつけて安全パトロールを実施している。当番以外にも犬の散歩、ウォーキング、買い物時など、子どもたちの下校時・下校後の安全が見守られている。教職員によるパトロールも随時行っている。



また、PTAの取組に賛同し、学区各種団体はじめ、「孫の安全のために」と、協力を申し出てくれる方もあり、意識の高まりを示している。

#### ③中学校区の安全対策に関する3PTAの取組

桂坂学区の安全対策は桂坂小学校の児童のためだけのものではなく、すべての幼児・児童・生徒さらには住民すべてに関係する事柄であるとの認識から、現PTA会長の発案により、3PTA(大枝小学校PTA、大枝中学校PTA、桂坂小学校PTA)の安全対策上の連携が図られ、それぞれの取組の拡充と安全に対する意識の共有化、安全対策の協力共同が図られている。

### 3 実践の成果と反応、課題等

本来の姿である「地域の安全は地域で守る」という大前提で議論されてきたことが、広く地域住民の安全意識の高まりにつながり、取組が充実してきたものと考えられる。

今後も、この視点を大切に取組を推進していく必要がある。身近なところで子どもを見守り、例えば、地域の大人が登下校時の子どもに暖かい眼差しを送り、「おはよう」「行ってらっしゃい」「おかえり」など声を掛けることが地域の安全の第一歩である。

# 危機意識を学校・家庭・地域で共有

～子どもたちを守る町づくりの推進～

石田小学校（学級数 11 児童数 249）

## 1 安心・安全上の地域の様子

本校の学区は外環状線をはさんで大規模高層住宅があり、この住宅に児童のほとんどが居住している。日本の社会全体がそうであるように、この地域においても住民の繋がりが希薄で高齢化も急速に進んでいる。

このような地域社会の中で、子どもを中心に据えた各種取組を通して子どもたちの健やかな成長を支援し、家庭・地域の教育力を高め、子どもたちの命・安全を守るためのシステムを構築していきたい。

## 2 取組の概要

### (1) 取組の趣旨

以前から、登下校の子どもたちの安全を確保するために、生徒指導部が中心となって毎朝登校指導を行い、PTA本部が中心になって「PTA声かけ運動」を行っている。

この「PTA声かけ運動」は保護者が子どもたちの登校の安全を見守るだけでなく、「おはようございます！」と元気な声で子どもたちに声をかけることで、朝のあいさつの習慣化が図れると考えている。また、子どもたちが地域の人たちに見守られていると実感でき、このことで子どもたちの心の安定化が期待できる。

学校・PTA・地域が合同で防犯対策研修を行い、危機管理の共有化を図ることで地域全体で子どもを守ろうとする意識が高まった。

### (2) 取組の内容及び方法等

#### ①登校時の安全を守る

##### 【PTA声かけ運動・さわやか登校日】



PTAでは毎月第1月曜に「PTA声かけ運動」第3月曜の「さわやか登校日」を行っている。この「さわやか登校日」は今年度（平成16年度）からPTA地域委員が中心に行っている。

#### ②緊急下校時の安全

本校において台風等による緊急下校の必要性が生じた場合、PTA本部に下校指導及び安全確保を要請して



いる。今後、緊急下校時の連絡・安全確保等の体制づくりをPTA、地域の協力を得て、さらに完全なものにしていきたい。

#### ③学校・PTA・地域合同防犯対策研修会

##### 【不審者侵入対策研修会】

今回、学校不審者侵入対策研修会を学校・



PTA・地域の合同で行った。講師は山科警察署から講師を招いた。保護者、地域の方々、教職員が子どもの命を守るため真剣に研修した。この訓練で十分だと思っ

た。この訓練で十分だと思っ

今後、子どもの命と安全を守るために学校では様々な対策を講じていく。さらに、子どもを守るために学校、PTA、地域の連携を今まで以上に強いものにしていきたい。



## 3 実践の成果と反応、課題等

「安全な社会ではなくなった。」この危機意識を学校・PTA・地域と合同で学校不審者対策研修を行うことで共有できたと考えている。

学校・PTA・地域の強い連携で子どもの安全を確保する体制がとれてきた。今後、さらに地域全体で子どもを守るシステムづくりを推進していきたい。

関係機関の協力を得て、子ども自身が自分で自分の命を守る訓練を定期的に行う必要があると考えている。

# 学校・家庭・地域のネットワークと取組

## ～ 子どもの安全見守り隊 ～

紫野小学校（学級数 14 児童数 342）

### 1 安心・安全上の地域の様子

本校は校区内に北大路通りや堀川通り等の交通量の多い道路があり、また路地に入れば細い道路でありながらも交通量の多い道もある。

また、学校の近くには大型ビデオショップ店や商店が集まり人通りの多い地域もあれば、船岡山のように、人の出入りが少なく、夜になると若者が集まる場所になるところもある。

### 2 取組の概要

#### （1）取組の趣旨

近年、登下校時の子どもの安全を脅かすような事件や事故が頻繁に発生するようになってきている。このような状況の中、子どもの安全を守るためには、学校としての取組はもちろんのこと、PTAをはじめ地域の各種団体、地域住民が協力し合い、校区全体で子どもの安全を確保していかなければいけない。

そこで、各種団体長が一堂に会し、今まで各種団体がそれぞれの立場で取り組んできたことを確認し合い、連携して取り組む方向を話し合った。その結果、紫野学区住民全体で学校と連携し、子どもの安全の為の取組、声かけ運動、パトロールを行うこととし、ボランティアも募集することにした。

#### （2）取組の内容及び方法等

##### ①登校時の安全

- ・PTAの町委員会が、毎水曜日に、校区内の横断歩道や危険な交差点に立ち、安全指導を行っている。
- ・PTAがステッカーを保護者に配布し、外出時に自転車に取り付けパトロールしたり、家の門に掲げたりしている。
- ・子どもたちの祖父母が、ボランティア活動として毎朝校門に立ち、あいさつや声かけをしながら、児童の安全指導を行っている。

##### ②下校時の安全

- ・社会福祉協議会が中心となり各種団体が協力し合い、地域住民に対し、子どもの登下校の安全を守ったり、声をかけあったり、パトロールしたりするボランティアの募集を行っている。

##### ③その他の安全

- ・PTA、少年補導委員会、教育後援会、体育振興会が、毎月交代で休日前に夜間の巡回パトロールを実施している。



### 3 実践の成果と反応、課題等

PTAをはじめ地域の各種団体は、普段から学校の取組に対して大変協力的であり、また「紫野の子どものために」という思いで取り組んでいた。

今までも地域の各種団体は、それぞれの立場で地域の安全確保のための取組は行っていたが、今回一致団結して子どもの安全を確保する取組を始めたことは、大きな前進である。このことは、地域の安全に対する意識の高揚につながり、今後それが地域住民全体へ広がっていくことを願っている。

# スマイル21プラン委員会と安全の取組

～地域全体に「こども110番のいえ」を増設～

高倉小学校（学級数 15 児童数 415）

## 1 安心・安全上の地域の様子

平成7年4月に統合して10年目を迎える。統合により、北は御池通から南は四条通、東は鴨川西岸から西は堀川通という広い校区となった。繁華街・商業地域内にあるが、近年はマンションが多く建設され、校区の様子も変わりつつある。校区の広がりや車・人の通行が多いことから、登下校の安全等が心配されるが、地域の方々のおかげで安心安全に過ごせている。

## 2 取組の概要

### (1) 取組の趣旨

6月に実施した学校評価「保護者アンケート」の結果をもとに、地域・保護者の代表・学識経験者や教職員等で構成する「スマイル21プラン委員会」で話し合いをもった。その中で、子どもの安全・防犯対策については、不安を感じておられる保護者が多いことが指摘され、安全対策を進める必要性が確認された。

そこで、まず「スマイル21プラン委員」の方々とパネルディスカッションを計画し、子どもたちの安全を守る取組を充実させる方法を話し合った。

### (2) 取組の内容及び方法等

#### ① 「こども110番のいえ」の確認

上記話し合いの中で既存の「こども110番のいえ」のご家庭と子どもたちをつなぐ取組を進めることが、子どもたちの安全を守る上でまず大切であることを認識した。

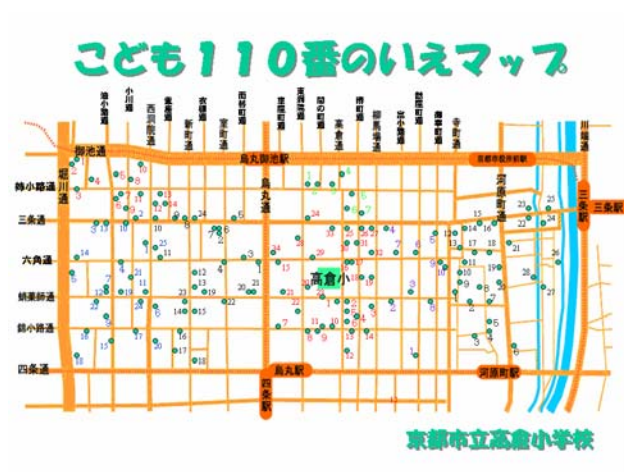
P T Aの地域委員が既存の「こども110番のいえ」の場所を確認・調査した。その結果、通学路になかったり、マンションに変わっていたりといくつかの問題点が見つかった。

#### ②地域・保護者等との連携

10月・11月に7学区の自治連合会長、防犯推進委員、P T A地域委員・本部役員、「スマイル」委員、五条警察署の方々にお集まりいただき、具体的な進め方について話し合った。

#### ③ 「こども110番のいえ」増設

自治連合会長、P T A地域委員、学校長等で「こども110番のいえ」が必要である所へ依頼に行き、当初の51カ所から140カ所余りに増設することができた。



## 3 実践の成果と反応、課題等

- ・町別児童会の時に、「こども110番のいえ」の場所を確認し、児童自身から挨拶したことにより、さらにご理解を得ることができた。
- ・今後も児童が「学校だより」や「行事の案内」を届け、普段からの交流機会を増やしていき、関わりを大切にすることが安全につながることを考えて取組む。
- ・「こども110番のいえ」のデジタルマップを児童がさらに活用し、浸透を図る。

# 地域の子どもは地域で守ろう

～ 広がる子どもを守る輪 ～

修学院第二小学校（学級数 14 児童数 354）

## 1 安心・安全上の地域の様子

本校は、北大路通りを挟んで南北に細長い校区である。その中央部には、南北に叡山電車が通っており、校区内に踏切が5箇所ある。

また、東大路通り、曼殊院通りなどは、自動車の通行量も多く、近くにはゲームセンターや商店街もあり、夜遅くまでにぎわっている。しかし、表通りを少し外れると人通りも少なくなり、夜など道路も薄暗くなる。両親とも働いている家庭が多く、だれかれとなく子どもを見守る地域の方の力は、大変心強いものである。

## 2 取組の概要

### （1）取組の趣旨

「地域の子どもは、地域で守ろう」と、少年補導委員会が中心になって自治連合会や社会福祉協議会、防犯推進委員会などの各種団体に呼びかけ、自主的に様々な取組を進めてくださっている。PTAとも連携し、「子どもを守ろう」という輪は広がりを見せている。

### （2）取組の内容及び方法等

#### ① プール開催中の下校時の子どもの見守り

本校の特徴的な取組として、少年補導委員会の方が、夏休みのプール開催期間中に泳ぎ疲れた子ども達が帰る様子を見て危ないと感じ、平成7年ごろより、午前と午後の2回、暑いときに交差点に立って子どもの安全を見守っていただいている。学校との協議の結果ではなく、全くの自発的な取組で10年もの間続けていただいていることに感謝するばかりである。

#### ② 登下校時の安全とパトロール

また、少年補導委員会では、毎月1日の午後8時からの校区内パトロールをはじめ、日曜日等の代休日のゲームセンターや公園のパトロール、祭礼の神社パトロールなど、自治連合会や防犯推進委員会と連携し、常に子どもの安全ということを念頭において、パト

ロールしていただいている。事件がおきた時なども、すばやく対応していただき大変ありがたい。

社会福祉協議会の方でも、子ども達の下校時刻に合わせて散歩や花の水やりなどをして、子どもを見守ろうという運動が進められている。

### ③ PTAの取組

PTAでは、子ども達全員に防犯ブザーを配布している。自転車に取り付ける「パトロール中」のステッカーや腕章などを保護者に配布し、出かけるときにつけることで抑止効果を狙っている。

また、安全マップの見直しや子どもを対象にした防犯教室を下鴨署と連携して取り組むなど積極的な活動を展開している。



## 3 実践の成果と反応、課題等

子どもを守ろうと、様々な取組に關つていただいている地域の方からは、「挨拶をしてくれたり、ありがとうという声を聞いたりすると、とてもうれしい。何度も顔を合わせていると、家のことや学校のことなどいろいろ話してくれるようになり親しみがわく。」というようなお声をいただいている。確実に子ども達へ多くの人の目が注がれ安全性は高まっている。子どもを中心に保護者とのつながりもできつつあり、希薄になっていた地域のつながりがまた少しずつ確かなものへと変わってきているように思われる。

# 地域ぐるみで子どもを守る

～学校・地域が一体となった子ども達の安全確保～

稲荷小学校（学級数 7 児童数 175）

## 1 安心・安全上の地域の様子

校区の地理的な環境面も含め、集団登校が組みにくい実状がある。グループでの登下校を指導しているが、登下校中、時間帯によっては、子ども一人になってしまうこともある。近年子どもをねらった事件等が相次ぐ中、子ども達の生命を守り、安心安全な学校づくりを推進するという観点から、登下校の安全確保を中心とした取組が求められる。

のステッカーを自転車の前籠に取り付け、犯罪の抑止効果を高める。



## 2 取組の概要

### (1) 取組の趣旨

平成16年7月、近隣の校区で起こった不審者による小学生暴行事件を契機に、学校側より、PTA・学校評議員・社会福祉協議会等に対し、児童の安全確保の協力依頼をした。PTAでは、早速PTA実行委員会において今までの取組の点検と取組強化に向け、具体策を検討した。

社会福祉協議会も「できることから始めましょう」と各種団体長、町内会長に対する協力依頼の要となっただき取組が具体化した。

- ・家庭教育学級による防犯意識の高揚  
伏見警察署員を招いての防犯教室

### ③地域の協力

- ・地域の方々による児童の「見守り運動」  
登下校時、地域の方々散歩等をされる時「パトロール中」の腕章をつけ、声かけ等をして子ども達を見守る。

### (2) 取組の内容及び方法等

#### ①教職員の取組

- ・子どもへの安全指導の徹底  
部活動の終了時刻厳守
- ・不審者侵入を想定した避難訓練の実施  
各教室に「ヘルプカード」「防犯ブザー」を設置する。
- ・地域パトロールの強化  
「パトロール中」の腕章をつけ登下校を中心に、校区をパトロールする。
- ・関係機関との連携  
伏見警察署 防犯委員会等

#### ②PTAとの連携

- ・「子ども110番の家」の再点検と追加登録
- ・「防犯ブザー」の全児童配布  
ベルマーク運動によって、防犯ブザーを200個取得。全児童に配布する。
- ・ステッカー付自転車による抑止活動  
100名のPTA会員が「パトロール中」



- ・町内の掲示板に緊急情報の掲示  
事件等発生時、PTA校外委員がすみやかに緊急情報をポスターとして作成した後、町内会長宅に届け掲示していただく。

## 3 実践の成果と反応、課題等

実践を通して「自分達で子どもを守る」という気運が高まってきた。またそうした気運と共に、新しい取組を始めることができ、子ども達の「安全確保」に向けた取組がより強固なものとなっていった。そして実践を通して、子ども達が地域の様々な方と出会いふれあい「あいさつの輪」がひろがった。登校時は多くの見守りがあるが、下校時は学年によって時間帯が違うため、更なる対策が必要である。

# 関係機関との連携による子どもの安全確保

～ 地域全体で子どもを守る ～

正親小学校（学級数 7 児童数 136）

## 1 安心・安全上の地域の様子

学校の歴史は古く、明治2年上京区十番組小学校として開校した。鶴令会（老人会）など地域の方々はこの小学校を卒業したと言われる人も多く、学校の教育活動に対して積極的な協力がみられる。少年補導委員会、交通安全会など各地域団体の活動も活発で、子どもたちとも顔見知りの方も多く、互いに挨拶などを交わしている。

このように地域全体で子どもを大切に育てていくとする機運に満ちた地域である。



1年生を対象とした登下校の安全についての学習では、交通巡視員及び平安レディースの方々に講師として招き、パネルを見てから歩いてみるなど、具体的な体験活動を通して教えていただいた。そして、路側帯を通ることの大切さや飛び出しの危険性、そして登下校には通学路を通ることなど、安全な歩行の仕方を学んだ。

## 2 取組の概要

### （1）取組の趣旨

地域で暮らし、育っていく子どもに対して、学校・家庭・地域がともに連携し、安全を守るとともに豊かな成長を育むことを目的として様々な取組をしている。

### （2）取組の内容及び方法等

#### ① 1年を通した定期的な取組

毎月1日と15日には、校区の各交差点で交通安全会の方々が登校時の交通安全指導を行っている。また、不審者の情報が入った時には、PTA地域補導委員が登校時間帯に交差点に立ち、子どもの安全を見守っている。

#### ② 始業式や長期休業前後の下校時

西陣警察署・平安レディースの方々が正門に立って児童の安全を見守っていただいている。また夏休みには、少年補導・PTA・学校が協力して夜間のパトロールを実施している。冬休みには、消防団・自主防災会の方々が夜間パトロールをされている。

町集会のときには、PTA地域補導委員に参加していただき、子どもと一緒に下校して子ども110番の家の所在を確かめている。

#### ③ 交通安全教室

地域の交通安全会の方々と警察、JAFとが、連携協力され、子どもたちに交通ルールの基本を教えていただいた。自転車の安全な乗り方をマスターした子どもたちに自転車運転免許証を交付していただいた。



#### ④ 避難訓練

不審者侵入を想定した避難訓練の事後指導では、警察の方からのお話を聞いた。子どもたちは、知らない人から「送ってあげよう」と言われても、ついていけないことなどの具体的な対処方法を学んだ。

## 3 実践の成果と反応、課題等

子どもも地域の方を知り、地域の方々も子どもを知り、互いに挨拶が交わされる取組をさらに進めていき、その繋がりを一層深めていくようにすることが課題である。



# 地域での顔見知りを増やす「声かけポスター」

～『手作りポスター』と『洛央ヒヤリ ハット マップ』～

洛央小学校（学級数 18 児童数 465）

## 1 安心・安全上の地域の様子

京都を代表する四条通、烏丸通、河原町通は、多くの大人が通行し、また交通量も多い。そして、中小の通りには会社や商店等が多く、昼間は狭い道路に自動車があふれている。子どもたちの生活の場はこの地域のマンションや町屋であり、大人や自動車等の間をぬうように歩いて登下校する姿も多く見られる。

## 2 取組の概要

### (1) 取組の趣旨

「学校安全ボランティア」の玄関常駐や「巡回箱」の設置等により、子ども・保護者・地域の方々が顔見知りになることで、学校はもとより地域の安全に繋げる努力をしている。

校区の家庭約9000世帯中、児童のいる家庭はわずか4%程度であるため、もっと地域の方々のお力添えを得て、児童の登下校の安全を見守ってもらおうとポスター作りを実施した。

また、「ヒヤリ・ハットマップ」作りについては、児童と保護者が自分の地域について安全の視点で見つめなおし、子ども・保護者・教職員が共に校区の危険箇所を認識し、安全への意識を高め合うことをねらいとしている。

### (2) 取組の内容及び方法等

#### ① 手作り「声かけポスター」で地域に呼びかけ

今までの子どもたちの安全確保にかかわる取組は、大人が子どもたちに何かをしていく取組であった。



今回は、子どもたち自身が地域の方々に自分たちの安全についてお願いする活動を通して、自分の安全についての自覚を深めるとともに、子どもたちと地域の方々との顔見知りを増やしていくことで、お互いが声をかけやすい関係づくりを構築することをねらいとしている。

- ・児童からの応募作品をもとに、コンピュータ処理して塗り絵形式のポスター図案に仕上げた。
- ・塗り絵形式にすることで、ポスターの個性化を図るとともに、学年の発達段階による作品の完成度のばらつきを回避した。
- ・塗り絵をして完成させることで、自分のポスターとしての意識を高め、地域の方へのお願いの意欲醸成の一助とした。
- ・文字は「おはよう」「おかえり」とし、地域の方の児童向け声かけことばとした。
- ・ブロック別集団下校で、通学路の家庭に配布し、朝夕の声かけをお願いした。

#### ② 「ヒヤリ・ハットマップ」の活動

ブロック別児童集会（町別児童集会）を活用して、子どもたちが登下校や毎日の生活の中で危険を感じた場所を話し合う。



- ・事前に地域委員を中心に保護者の目で危険箇所の確認をし、デジタルカメラ等で記録をとり、後で写真を見ながら交流できるように工夫した。
- ・ブロック別児童集会では、子どもたちは大型地図を見ながら、危険だと思う所にシールを貼り、話し合った。また、この後、ブロック別に集団下校しながら、危険箇所について実際に確認した。
- ・拡大した校区地図（マップ）に危険箇所や子ども110番の家等をシールやマークで表した。

## 3 実践の成果と反応、課題等

子どもたち自身が手作りの「声かけポスター」を配布することで、地域の方々の優しさを感じることができた。

また通学路での顔見知りもでき、地域の安全意識の高揚と子どもたちの気持ちの安心に繋がった。

マップ作りに、子どもたち・保護者・教職員が協力して、手作りで完成させたことで、マップへの子どもたちの関心が非常に高くなった。

# 白川キッズ「あんぜんたい」の活動

～活動を通じて家庭・地域に発信～

白川小学校（学級数 7 児童数 163）

## 1 安心・安全上の地域の様子

白川小学校は、元栗田校と元有済校が統合し、今年度新しくできた学校である。そのため校区は四条川端通りから蹴上まで東西に広がり、特に有済学区の子どもたちは通学距離が伸びた。校区東側は、夜間神社仏閣が多く、栗田山も近くにあり、人通りは少ない。校区西側は、夜に賑わう繁華街や祇園地域があり、昼間は人通りが少ない。また、三条京阪付近は地下道などもある。防犯上留意することは多い。

## 2 取組の概要

### (1) 取組の趣旨

学校評議員会をもち、地域のかかわりについて話し合った。その中で、無理なくすぐに取り組めるものであること、しかも、継続してできる取組であることなどが意見として出された。以前からお願いしている集団登校の集合場所で子どもの様子を見てもらう。集団登校とともに歩くことができる方には、登校中の安全にも留意してもらう。ということに付け加えて、今回、PTAや地域の方に働きかけ、植木の水やり、犬の散歩など日常家の外に出る時間を、子どもたちの登下校の時間帯にあわせて「あいさつ運動」を考えた。2年生児童が生活科で実施した「白川キッズ『あんぜんたい』」の「白川安全マップ」を地域に広め、学校の取組を広報し、家庭・地域の意識高揚を図ることにした。

### (2) 取組の内容及び方法等

#### ① 2年生 白川キッズ「あんぜんたい」の活動

生活科で校区探検に出かけた。事前にどんなものがあるのかクラス全員で予想したり、今まで見つけたことのあるものを発表したりして、どこを回るのかという計画を立てた。この活動の少し前に地震があったり、避難訓練があったりしたので、子どもたちは広域避難場所や町の標識などについて強い関心をもっていた。そして、実際に探検に出かけると学校の北を通っている三条通には、たくさんの標識があることに気付いたり、公衆電話には非常ボタンがあったりしたことを見つけた。



また、円山公園が広域避難場所であるということだけでなく、災害のための器具庫があるのを見つれたり、地下鉄の入り口には火災などのための消火用ホースの接続口があるのに気付いたりした。児童公園や学校の近くには子どもも安心して遊んだり、通学したりできるような標識があるのも見つけ、自分たちの生活が、様々な施設やそれらを設置するたくさんの人たちによって支えられていることに気付いたようである。

また、探検したことを防災マップにまとめ、「ぼうさい探検隊マップコンクール」([http://www.sonpo.or.jp/sonpo-life/pri\\_pub/boosaimap-happyo2004.html#shinsain2](http://www.sonpo.or.jp/sonpo-life/pri_pub/boosaimap-happyo2004.html#shinsain2))に発表したり、学校に掲示することで他の学年の意識を高揚させたりしている。

#### ② 学校の活動成果を地域に広報

上記の活動を地域各種団体の会合やPTAの会合の折に、また、学校日より、地域日より等を通じて広報し、地域の方に安全に関しての意識を持っていただくことにした。

## 3 実践の成果と反応、課題等

家庭・地域との連携による取組は、小さいことを継続することが大切だと考えている。先の取組を始める前から、商店街の方など気さくに子どもたちに声をかけてくれる姿がよく見られた。一般の家庭でも、子どもたちに声をかけてくれる方が少しずつ増え、子どもたちとの会話の中にも防犯の話が出るとうれしく考える。自転車かごにパトロール中の札をつけることや腕章をして活動することなども少しずつ広げていきたい。

# 老人クラブ連合会との連携による学校の安全

～地域ぐるみで行事を盛り上げ、不審者侵入シャットアウト～

八条中学校（学級数 11 生徒数 311）

## 1 安心・安全上の地域の様子

ここ2～3年の間に休日や夜間に校舎内への侵入が数件あった。窓ガラスが割られ、錠が開けられ、物品の盗難にもあった。

特に2年前の体育祭の時には、みんなの関心がグラウンドに集まっている隙に、校舎に外部から何者かが侵入し、窓を無理矢理こじ開け、教室内を荒らし、金品を盗んでいった。犯人は虎視眈々とチャンスを窺っていた様子で、その手際よさに慄然とさせられた。

## 2 取組の概要

### (1) 取組の趣旨

地域の老人クラブの会長と会員宛に小・中のPTA、少年補導委員会、民生児童委員会、交通対策協議会、防犯推進協議会の連名で「子どもたちの安全・健全育成に係るご協力のお願い」と題した次のような文書を配布した。

『季春の候、会長様をはじめ、会員の皆様にはますますご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。平素は子どもたちのために学校教育、地域教育、家庭教育にいろいろな方面からのご助言・ご指導いただきまして、誠にありがとうございます。』

さて、ニュースなどでご存じの通り、誘拐や虐待、不審者による暴力など昨今の子ども達を取り巻く環境は決して好ましい状況ではありません。子ども達の安全・健全育成のために学校を中心に地域の各種団体がそれぞれの取組を展開しているところではございますが、老人クラブの皆様にもご協力いただきたく、たいへんあつかましくは存じますが、是非ともよろしくお願ひ申し上げます。』

ご協力いただきたい内容

- ①地域幼稚園・小中学校の登下校時の見守り・声かけ
- ②学校の参観日（日曜参観・運動会・体育祭・学芸会・文化祭等）への参加
- ③学校ゲストティーチャー（地域協力講師）

としての協力

例：作法・花壇等の手入れの指導・協力

- ④不審者を見かけたときの警察や学校へ通報
- ⑤家庭内暴力・虐待（子ども・夫婦・親子・老人）などを見知ったときの通報
- ⑥中学校「いきいきトーク」への参加
- ⑦部活動の練習、試合の見学・応援
- ⑧地域の催しへの参加
- ⑨散歩ついでのパトロール
- ⑩交番所への訪問

### (2) 取組の内容及び方法等

これらと同時に中学校の生徒会も老人クラブに対して、日曜参観や行事の時に出来るだけたくさんの方々为学校に来て、そして自分たちが安心して学習や行事に取り組めるように協力して欲しいとお願いをした。



## 3 実践の成果と反応、課題等

呼びかけやお願いをした結果、平成16年度の日曜授業参観（3回実施）へは約800名、合唱コンクールと体育祭へはそれぞれ約500名、文化祭へは約200名近くの参観者があり、行事の盛り上がりはもちろんのこと、校内の各所に居ていただくことで子どもたちへ目が届き、関係者外や不審者の侵入を防ぎ、安全に取組を行うことができた。また、地域の方々に中学生のがんばっている姿を見ていただくことで、日頃お小言をいただくことの多い中学生との距離も縮まり、より温かく見守っていただけるようになってきている。

# 地域の住民活動と生徒会との連携

## ～ 中学生が地域の子供を守る～

修学院中学校（学級数22 生徒数734）

### 1 安心・安全上の地域の様子

修学院中学校は、八瀬・上高野・修学院・修学院第二の4小学校からなる広い校区である。それぞれの小学校区で、比叡山の山麓地域から農業地、市街地と地域の特徴が異なっている。市街地を除けば、人通りの少ないところもあり、それぞれの地域で子供の安全確保の努力が続けられている。

### 2 取組の概要

#### (1) 取組の趣旨

地域や社会で「中学生のパワー」を役立てたい。本校では、ニュースで小学生が被害に遭った事件のたびに「登下校時など小学生を見守ってあげて」と生徒に呼びかけてきた。

ちょうどその時、修学院第二社会福祉協議会から本校生徒会に「子供の見守り活動」に参加の依頼があり、趣旨に賛同した生徒会から全校生徒へ参加の呼びかけを行った。

#### (2) 取組の内容及び方法等

##### ①地域からの依頼に賛同

地域から「子どもの見守り活動」について説明を受け、生徒会に趣旨説明したところ、生徒会が自主的に全生徒に呼びかけを行った。

##### ②かばんに赤いバッチ

生徒会の呼びかけに賛同した生徒は、約200人を数えることになった。

「子ども見守り活動」に参加する生徒のカバンには、赤いバッチをつけることになり、「中学生のみんなが子どもを見ている」という周囲へのアピールとなっている。

##### ③活動方法

生徒の登下校時間と児童の登下校時間が重なるため、通学路で児童を見守る活動を続ける。

中学3年の生徒は「バッチをつけていると、小学生が声をかけてくれる。こっちも挨拶を返しやすい」とカバンに赤いバッチをつけていることで、「見守り活動」とともに「あいさつ運動」も行えるようになり、効果が現れてきている。

地域からも「子どもを見守る目が増えただけでなく、中学生が地域の大人の仲間入りをしたという自覚を持つことにもつながっているようだ」という声がかきこえてきている。



提供 京都新聞

### 3 実践の成果と反応、課題等

#### ・守られる立場から守る立場へ

守られる立場にあった中学生が、「小さい子どもたちを守る」。この取組の中で、生徒たちに地域の一員であり、地域に貢献できる存在であるとの自覚が目覚めてきた。

#### ・中学生に親近感

バッチを付けていると、小学生から声をかけてきたり、あいさつすると親近感を持ってあいさつを返してくれるなどの感想が聞かれた。

#### ・バッチの認知度

一小学校区から始まった運動のため、他小学校区での認知度が低い。バッチの認知度を高める取組とともに、バッチがなくても「子供を見守る」、そんな地域に存在感のある中学生の育成に努めていきたい。



京都市立白川小学校 「安全マップ」

# 吉田人々見守り新門

## 花の水ややさんぽの時にぼくたちわたしたちをがん見守る

**見守っている人たくさんいる  
ニコニコだよ**

やさしく見守ってください  
校長先生ときょうとう先生

**地域の見守り活動について  
調べました**

PTAの人が  
作ったポスター

**地域に見守られている  
第四錦林小学校**

メンバー
八田 晋輔
諸永 あゆか
泉 大樹
河原 桃
中野 勇亮
五幣 奈津代
井上 千取
市成 莉絵

第四錦林小学校  
4年2組

**わたしたちの登下校を  
見守ってくださっている人マップ**

**ぼくが100人以上を登下校時や  
下校時に見守ってくれている。**

**みんなとしながら見守  
てくれている人**

**こども  
110番  
のね**

**私たちを見守ってくださっている  
人たち**

京都市立第四錦林小学校 安全マップ

# 京都市子ども安全ネットワークニュース

vol. 1 平成16年4月 発行：京都市子ども安全会議事務局

(教育委員会体育健康教育室 Tel.213-5472)

## 第1回京都市子ども安全会議の開催

地域ぐるみで子どもを守るため、具体的な取組が紹介され、活発な論議

～「こども安心安全パトロール中」のステッカーを作成

先ず教育委員会の公用車から～

近年、学校内や通学路において、子どもの安全に関わる事件・事故が全国的に多発してきており、学校・家庭・地域の連携による子どもの安全対策が今まで以上に重要となってきています。

そのような中で京都市では、本年4月に、学校・PTA、人づくり21世紀委員会等の代表と教育委員会が、子どもの安全対策について話し合い、総合的・系統的な安全対策を推進するため、「京都市子ども安全会議」が発足。その第1回の会議が4月21日、総合教育センターで開催され、各校・地域における具体的な取組事例が紹介され、活発な論議が交わされました。



会議の中で、PTA代表から、自転車のかごに「パトロール中」のプレートをつけているように、京都市の公用車にもステッカーを貼って走ってはど

うかとの提案があり、まずは教育委員会の公用車から実践しようと、その場で決定しました。早速、ステッカーを作り、ゴールデンウィーク明けから、メールカーなどの両サイドに貼って業務に当たります。参加者は、それぞれ「危機感」「使命感」を持って具体的な取組を展開することを確認しました。このほか、会議で出された主な意見は、次のとおりです。

こども  
あんしん・あんぜん  
パトロール中

京都市子ども安全会議

京都市PTA連絡協議会 人づくり21世紀委員会 京都市地域生活利用推進委員会  
京都市学校保健会 京都市立学校長・園長会 京都市教育委員会



- ◎ 小学校PTA連絡協議会では、各単位PTAに安全対策マニュアルや安全マップづくりを呼びかけている。ある支部では、それぞれに作成したマニュアル・マップを見せ合い、情報交換を行っている。
  - ◎ 保護者等による校門での声かけ運動は、いじめ・不登校対策から防犯・安全対策に目的が変わり、多くの小学校で行われている。地域の方々も積極的に参加していただいている。
  - ◎ 「してくれる人」「してもらう人」の関係では子どもの安全は守れない。自分たちでできることは何か、考え、行動することが大切である。
  - ◎ 防犯ブザーは、たしかに一つの安全対策ではあるが、単に与えるのではなく、子どもたち自身にも、「自分で自分を守る力」を育てることが大切である。
- 防犯訓練は、子どものみならず、教職員の意識向上にもプラスに働くので、もっと取り組むべきである。

- ◎ 小さい子どもの心には、防犯指導が人を疑うという気持ちを根付かせ、地域の人たちとあまり会話しないという状況にもなりかねないので、安全対策にもこのような問題を考慮したバランス感覚が重要である。
- ◎ 地域の中で、大人と子どもがお互いに顔を知り合う関係づくりが大切である。
- ◎ ネットワーク参加者すべてが同じ情報を共有するネットワークを構築すべきである。

### ＜京都市子ども安全会議の構成＞

中嶋晴彦 子ども安全統括官（座長），森田正和 体育健康教育室長（座長代理）

中村通子 子ども安全課長（副座長）

P T A連絡協議会（5名），校・園長会（5名），人づくり21世紀委員会（1名），地域生徒指導連合会（1名），学校保健会（1名），教育委員会（9名） 全25名

## 保護者・地域のボランティアによる安全活動事例

「子どもの安全確保 学校・園防犯実践事例集」の作成・配布（平成16年3月）以後，新たに開始された保護者や地域の活動事例を紹介します。防犯実践事例集の活用と併せ，これらの活動事例も参考に，子どもの安全を守るための地域ぐるみの取組を，今後，一層推進してください。

また，新たな取組がありましたら，当事務局（体育健康教育室学校安全担当）までお知らせください。

### ○ 陶化小学校

P T Aから全児童に防犯ブザーとステッカーを配付。ステッカーは，ランドセル等のよく見える場所に貼る。



### ○ 洛央小学校「学校安全ボランティア」

保護者・地域の方が，学校の玄関ホールに詰め，来校者の受付を行う。（不審者が現れれば，職員室に通報する。）午前10時～午後1時 午後1時～午後4時の時間帯に各3～4名が常駐。

### ○ 砂川小学校

保護者・地域の方が，正門の敷地内で，児童や来校者への声かけを行う。（不審者が現れれば，職員室に通報する。）午前9時～午後3時に3名程が常駐。

### ○ 梅津北小学校

保護者・地域の方が，正門の敷地内で，児童や来校者への声かけや正門・裏門のパトロール等を行う。（不審者が現れれば，職員室に通報する。）平成16年4月下旬からの本格実施を目指す。

### ○ 嵐山小学校「安全パトロール」

保護者・地域の方が，登下校時間帯に，学区パトロール，自宅前や交差点等での立ち番，通学児童への同行，声かけなどを行なう。地域全体に募集し，現在，50名が活動。

### ○ 桂徳小学校「スクールヘルパー」

老人クラブが，スクールヘルパー実行委員会を組織し，ボランティアを募集・登録し，校門警備と学校内外のパトロール等を行なう。実行委員会が，ジャンパー，帽子，たすき，腕章を貸与。



# 京都市子ども安全ネットワークニュース

vol. 2 平成16年7月 発行：京都市子ども安全会議事務局

(教育委員会体育健康教育部室 Tel213-5472)

## 子どもたちの安全を守るために、今こそ行動を！

子ども安全統括官・生涯学習部長 中嶋晴彦



連日、子どもたちを巻き込んだ事件や事故が発生する中、子どもたちを守るために、学校・家庭・地域・各種団体等が連携を深め、私たち大人一人一人が今こそ行動を起こさなければなりません。

長崎県の痛ましい事件の際には、直ちにPTAや人づくり21世紀委員会等の代表の方も入って緊急連絡会議を開き、緊急アピール～「いのちの大切さ」を教え、「人を思いやる心」を育むために～を発信し、子どもたちのために何をなすべきかをともに考え行動しようと強く訴えました。

子ども安全会議でも、会議の議論を踏まえ、公用車への安全ステッカーの貼付や各家庭で親子で話し合っただけのためのリーフレット「子どもが事件や事故にまきこまれないために」の配付を行いました。また、情報発信を重視し、「京都市子ども安全ネットワークニュース」を発刊し、子どもの安全確保のための保護者・地域のボラン

ティアによる活動事例を掲載したところ、これがさらに各校・園での取組の拡がりにつながり、大変心強く思っています。

先日、学校訪問をした折、校門付近で来校者の受付をされているボランティアの方が、「子どもたちの安全を守るために地域ぐるみで行動したいと思っている。子どもと地域の大人とが毎日学校で顔を合わせ、声をかけ合うことから、地域の再生の第一歩としたい。」と言われたことが強く印象に残っています。

保護者や地域の方々とのパートナーシップの下、地域ぐるみで子どもの安全を守る取組は、まさに人と人との豊かな関わり合いを中軸に据えた新しい地域コミュニティの構築につながるものです。各学校・園・地域での実情に応じた取組がさらに拡がることを期待しています。

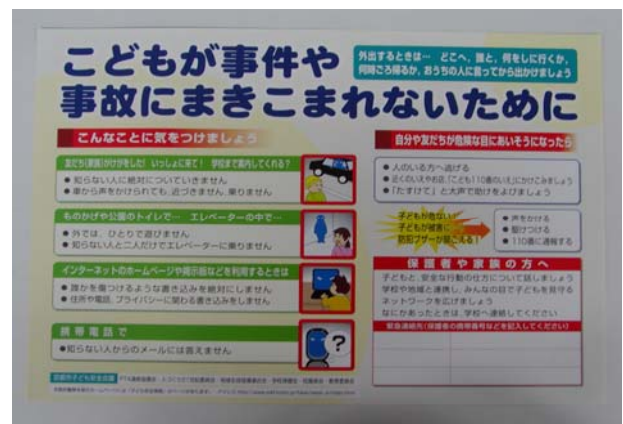
## 親子で安全な生活について話し合おう！！

～第2回京都市子ども安全会議～

7月2日、第2回会議が開催され、学校・園内外における子どもの安全確保に関する取組事例の紹介と活発な論議が行われました。

その中で、子どもが誘拐や痴漢などの事件や事故の被害にあわないために注意することや、万一身の危険を感じたときの対処の仕方などについて記載した、親子で活用してもらえらるリーフレット「子どもが事件や事故にまきこまれないために」を作成し、全保護者に配付することが決まりました。

各家庭において、このリーフレットをいつも見えるところに掲示してもらい、安全な生活について、親子での話題として取り上げ、一緒に考え、



普段からの心構えを身につけるようにするなど、活用してもらいたいと考えております。

このリーフレットは、7月中旬に各学校・園を通じて各家庭に配付されました。

# 保護者・地域のボランティアによる安全活動事例

前回到引き続き、子どもの安全を守るための地域ぐるみの取組を紹介しします。活動事例を参考にさせていただき、地域ぐるみの安全の取組を推進してください。

※ 学校・園や地域での取組事例を当事務局（体育健康教育室学校安全担当）までお知らせください。

## ○ 第四錦林小学校

PTA や校区の住民の方々による子どもの見守り活動を実施。通学路で登下校の時刻にあわせ、地域の方が門はき、花の水撒き、犬の散歩、ジョギング等しながら、子どもたちを見守り、声かけをしている。約100人参加。（NHKテレビ「ご近所の底力」で紹介されました。）

## ○ 修学院第二小学校

下鴨少年補導委員会修二支部の活動として、昭和56年ごろから夏休みのプール終了後、下校する子どもたちを見守ろうとパトロールを実施。夏休みプール開設期間中（今年度は7/21～8/6）、午前の部終了後（午前11時30分～）と午後の部終了後（午後3時～）の1日2回、交通量の多いところや人通りの少ないところ等3ヶ所でパトロールをし、子どもに声かけをしている。

## ○ 山階小学校

昨年12月の宇治小事件を受け、子どもや地域住民が安心して暮らせるように、地域住民が「山階安らぎの街づくり会」を結成。会の活動の一つとして、本年5月に校区内をパトロールする「みまもり隊」を発足し、毎日、登下校時に立ち番・パトロール、毎週木曜日に校舎の安全点検、月に1回校区内の見回りを実施している。また、夏休みのプール指導やチャレンジタイム学習の期間においても登校時に立ち番・パトロールを実施している。現在、隊員は住民19人で構成。

## ○ 山ノ内小学校

平成13年の大教大附属小事件以後、自治連合会が中心となって通学路3ヶ所での立ち番を実施。登校時は、PTA と交通安全推進委員会が、下校時には、地域のお年寄りや自治連合会の方々が、数名ずつ毎日交替で低学年の下校時間帯を中心に30分～1時間程度立ち番をする。（毎月の下校時刻を学校から自治連合会に連絡。）約700人が参加されているため、1人当たりの出番は年数回とのこと。帽子を統一して着用している。

## ○ 川岡小学校

児童会（安全委員会）の活動として、地域の安全を守るための川岡版こども110番のいえ「かわおかレスキュー」のステッカーを作成し、警察署の方とともに地域のお店にお願いして貼っていただき、さらに、保護者にも2枚ずつ配付し、1枚は、自宅の前に貼付、もう1枚は、保護者から近所の方にも貼っていただくよう依頼。ステッカーの図案と名称は児童から募集した。

自治連合会からも協力を得て、川岡地域住民に周知され、地域の犯罪抑止力になり、「地域の子は地域で守る」活動の推進力になっている。



児童がデザインした

「かわおかレスキュー」のステッカー

## ○ 修学院中学校

今年度から生徒が、地域住民による児童の「安全見守り活動」に参加している。学区の社会福祉協議会が作った赤いバッジ（修ちゃんバッジ）を鞆などにつけて登下校し、「みんなが子どもを見守っているよ」とアピールしている。現在、400人の生徒がバッジをつけている。挨拶や声かけを通して小学生との交流が深まり、また、バッジをつけていることで、中学生としての規範意識が高まるなど、生徒にとって有効である。

# 京都市子ども安全ネットワークニュース

vol.3 平成17年1月 発行：京都市子ども安全会議事務局  
(教育委員会体育健康教育室 TEL.213-5472)

## 学校・家庭・地域のさらなる連携を!!

～ 第3回京都市子ども安全会議 ～

12月16日、第3回会議が開催され、京都市の取組として、文化市民局から「地域の安心安全ネットワーク形成事業」の進捗状況についての報告と、教育委員会から「不審者・痴漢・連れ去り等に関する事案」の現状と取組状況についての報告がなされ活発な議論がなされました。

「地域の安心安全ネットワーク形成事業」については、この事業の概要説明と、モデル地域の指定を受けている修徳学区（下京区）、吉祥院学区（南区）、六原学区（東山区）、砂川学区（伏見区）、4学区における取組内容の報告が行われました。

「不審者・痴漢・連れ去り等に関する事案」の現状と取組状況については、小学校及び中学校における不審者等の状況の報告があり、平成16年4月1日から12月14日までに小学校66件、中学校85件の事案があったとの報告がなされました。それと同時に、不審者等の事案発生時の学校における対応についても説明がありました。

その後、委員による活発な議論が行われ、学校・PTA・地域団体・教育委員会・その他関係機関との連携のさらなる強化について確認しました。

### ◎ モデル地域の主な取組

学 区	主 な 取 組 内 容
修 徳 学 区	声かけ愛のたすきリレー、修徳・キッズサポーターズ愛の家、安心安全携帯愛のメールフレンドチーム、洛央小学校「巡回箱」の設置等
吉 祥 院 学 区	みんなで安心安全の井戸端会議の開催、吉祥院ふれあいジャンボリーにおける講演会、安心安全のまちづくりアンケートの実施等
六 原 学 区	六原安・安マップの作成、防災・防犯教室の開催、炊き出し訓練、門灯をつける運動の推進等
砂 川 学 区	砂川地域と龍谷大学の連携によるワークショップやタウンウォッチングの実施、アンケート調査の実施等

## となりのおばちゃん、子育てを支援します!

～ 温もりのある地域社会づくり推進事業の取組 ～

京都市地域女性連合会は、「温もりのある地域社会づくり推進事業」の一環として、「となりのおばちゃん 子育てを支援します!」と書かれたステッカーやプレートを会員に配布し、子育て中の親や地域の人たちが気軽に集い、話や相談などができる「場所」の目印として、また地域を見守り、子育てを支える「人」の証として、自宅、商店などや地域行事を行う際に掲げられます。

子育てに悩んだとき、ちょっとお話をしたいとき、このマークを見かけたら、気軽に声を掛けてみてください。



## 保護者・地域のボランティアによる安全活動事例

前回に引き続き、子どもの安全を守るための地域ぐるみの取組を紹介しします。活動事例を参考にいただき、地域ぐるみの安全の取組を推進してください。

※ 学校・園や地域での取組事例を当事務局（体育健康教育室学校安全担当）までお知らせください。

### ●百々小学校

平成16年9月から、地域の有志の方々を中心に「パトロール百々」を結成。「パトロール百々」のネーム入りの帽子をかぶり、登校時には交差点や門のそばに立ち、下校時にも門の近辺や周辺をパトロールするなどの活動を続けている。

### ●御室小学校

御室交通安全推進会の方々による「笑顔でおかえりキャンペーン」を実施。新1年生の下校時に、学校から家までの下校指導を行っている。また、登校時には、通学路の2カ所で、当番の保護者と管理職により、交通整理と朝の声かけを兼ねた安全指導を実施している。

### ●南太秦小学校

一昨年12月の宇治小事件を受け、子どもたちの安全を見守るため、PTA会長、自治連会長や各種団体長と協議のうえ、「子ども見守り隊」を結成。約100名の方々の参加のもと、それぞれ自分の自由時間や外へ出る機会を利用して子どもたちを見守る活動を続けている。

### ●宇多野小学校

平成16年度から、子どもたちの下校時における安全確保のために、地域ボランティアと防犯推進委員の方々との協力による「うたのパトロール隊」を結成。現在、約50名の方々により、毎日、午後2時30分頃から約2時間、校区内の通学路を分担してパトロールを実施している。子どもたちは、地域の方々に見守られているという安心感に包まれて下校している。

### ●醍醐西小学校

保護者の有志で作る「すずらんボランティア」による地域パトロールを実施。学校の長期休業中や土・日曜日など教職員がパトロールしにくい時間帯を中心に、数人がグループになって「醍醐西地域パトロール」の腕章をつけ、隣接する大型スーパーや飲食店街地域内の公園などを見回っている。

## 小学生の“ぼうさい探検隊”マップコンクールで受賞！

ユネスコ、朝日新聞社、日本損害保険協会などが主催する「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」に応募した第四錦林小学校が「吉田見守り新聞」でユネスコ賞を、白川小学校が「白川キッズあんぜんたい」で審査員特別賞をそれぞれ受賞しました。

第四錦林小学校は4年生の社会科、白川小学校は2年生の生活科の授業の中で安全マップづくりの活動をしました。



「白川キッズあんぜんたい」



「吉田見守り新聞」

# こどもが事件や事故にまきこまれないために

外出するときは… どこへ、誰と、何をしに行くか、何時ごろ帰るか、おうちの人に言ってから出かけましょう

## こんなことに気をつけましょう

友だち(家族)がけがをした! いっしょに来て! 学校まで案内してくれる?

- 知らない人に絶対についていきません
- 車から声をかけられても、近づきません、乗りません



ものかけや公園のトイレで… エレベーターの中で…

- 外では、ひとりで遊びません
- 知らない人と二人だけでエレベーターに乗りません



インターネットのホームページや掲示板などを利用するときは

- 誰かを傷つけるような書き込みを絶対にしません
- 住所や電話、プライバシーに関わる書き込みをしません



携帯電話で

- 知らない人からのメールには答えません



## 自分や友だちが危険な目にあいそうになったら

- 人のいる方へ逃げる
- 近くのお店、「こども110番のいえ」にかけこみましょう
- 「たすけて」と大声で助けをよびましょう

子どもが危ない!  
子どもが被害に…!  
防犯ブザーが聞こえる!

- 声をかける
- 駆けつける
- 110番に通報する

## 保護者や家族の方へ

子どもと、安全な行動の仕方について話しましょう  
学校や地域と連携し、みんなの目で子どもを見守る  
ネットワークを広げましょう  
なにかあったときは、学校へ連絡してください

緊急連絡先(保護者の携帯番号などを記入してください)


## 「いのちの大切さ」を教え、「人を思いやる心」を育むために

～子どもたちが事の善悪を判断できるようしっかり教えよう～

昨日、長崎県において学校内で小学6年生の児童が、同級生によって殺害されるという痛ましい事件が発生しました。私たちは、これまでから、学校・家庭・地域・各種団体等が連携し、「いのちの大切さ」を教え、「人を思いやる心」を育むための地道な取組を、様々な場面で進めてきたところですが、今回の事件に大きな衝撃を感じずにはられません。

今の時点では、事件の詳細やその背景などは明らかになっていませんが、かけがえのない子どもの「いのち」を同級生によって絶たれたという現実には強い憤りと深い悲しみを感じます。

私たちは、今回の事態の重大性を十分に認識した上で、今一度それぞれの立場から一人一人の子どもにどう向き合い、それぞれの自分に何ができるかを考え、これまでの取組の正しさに自信と自覚をもって、子どもたちの健やかな成長のため、その継続と一層の強化に向け、全力で行動することを決意し、ここに緊急アピールを行います。

- 家庭は教育の原点であり、家庭のもつ責任の重さを強く認識し、子どもとじっくり語り合い、親と子がふれあう場を増やし、子どもたちの小さな変化を見逃すことのないよう努めるとともに、一人一人の「いのち」はかけがえのないものであることを考えさせましょう。
- 学校・家庭・地域・各種団体等の連携をより一層深め、それぞれの立場から、
  - ・ 「許されない行為」に対しては、子どもたちに事の善悪がわかるまで、粘り強く徹底的に教えることが大切であり、「ダメなことはダメ」とはっきりした態度で臨みましょう。
  - ・ 子どもを温かく、厳しく見つめ、行為に対しての結果を予測し、自らの感情をコントロールする力を身につけましょう。
  - ・ 子どもたちを取り巻く人間関係のゆがみなどを把握し、共通理解に立って行動しましょう。
- こうした事件が、大人社会の投影であると受け止め、一人一人の大人が自らのあり方を見つめ直し、子どもたちのために何をなすべきか共に考え行動しましょう。

平成16年6月2日

人づくり21世紀委員会  
京都市PTA連絡協議会  
京都市地域生徒指導連合会  
京都市小学校長会  
京都市立中学校長会  
京都市立高等学校長会  
京都市立総合養護学校長会  
京都市教育委員会

京都市立学校・園PTA会長様

京都市立学校長・園長様

## 学校・保護者・地域が一体となって 子どもの登下校時等における安全確保の徹底を！

去る、11月17日に奈良県の小学校1年の女子児童が誘拐され、11月18日に遺体で発見されるという大変痛ましい事件が発生いたしました。

幼児・児童・生徒の安全確保につきましては、日ごろから万全を期していただいているところであります。特に、子どもたちの登下校時の安全確保については、これまでからも、学校・家庭・地域・各種団体等が連携し、通学路での立番や子どもたちの付き添い、地域の実態にあった学校独自の安全マップの作成等、地道な取組を推進され、子どもたちを見守っていただいております。

今回の事件を契機に、学校・家庭・地域社会・各種団体・関係機関との連携を一層強化し、今一度、登下校時の安全確保をはじめ、幼児・児童・生徒への安全指導や学校・園の安全管理について、再度気を引き締め、主に次の点について、留意されますようお願いいたします。

- ① 保護者・地域が、登下校時に、子どもの様子をチェックするなど、安全確保にこれまで以上に関わっていただく。
- ② 家庭で子どもの下校時間に注意するなど、安全確保に努めよう。
- ③ 必要に応じて、集団登下校を行おう。
- ④ 知らない人の誘いに応じないように指導を徹底しよう。
- ⑤ 「こども110番のいえ」を積極的に活用しよう。

平成16年11月19日

京都市PTA連絡協議会  
京都市立幼稚園長会  
京都市小学校長会  
京都市立中学校長会  
京都市立高等学校長会  
京都市立総合養護学校長会  
京都市教育委員会

(Y903C6)

平成17年2月14日

京都市立学校長・園長様

京都市教育委員会

教育長 門川大作

## 学校における安全確保の再徹底を（緊急通知）

本日、午後3時10分ごろ、大阪府寝屋川市立の小学校で、刃物を持った17歳の少年が校舎内に侵入し、教職員3人が相次いで刃物で刺され、1人が死亡するという痛ましい事件が発生いたしました。

幼児・児童・生徒の安全確保をはじめ学校の安全体制につきましては、日頃から学校・家庭・地域そして関係機関等が連携して万全を期していただいておりますが、下記内容を留意の上、各学校の危機管理マニュアルにしたがって、学校における安全体制の点検等、安全確保の再徹底をお願いいたします。

### 記

- 1 教職員一人ひとりが、突発的な事態が発生した場合の緊急対応すべき事項及び防犯体制を再確認すること。
- 2 様々な機会を通して、幼児・児童・生徒に防犯意識を高める指導を図ること。
- 3 家庭や地域、関係機関等と連携した幼児・児童・生徒等の安全確保のこれまでの取組や体制について再点検すること。

### <参考資料>

- ・学校安全の手引・別冊
- ・安全管理状況（防犯対策）チェックリスト
- ・子どもの安全確保 学校・園防犯実践事例集



## 編 集 後 記

本冊子の取組の特色として、「教科や特別活動の中に位置づけられた取組」「生徒の自主的な取組」「PTA・地域の無理なく、継続性のある取組」が挙げられる。これらの取組を「学校における安全確保に関する充実方策―基本的な考え方―〈抜粋〉（文部科学省より）」と関連づけてふれることにした。

### 1 総合的な対策の必要性

様々な側面からの多様な対策が求められるが、その有効性を高めるためには、各取組を関連づけて総合的に実施することが必要である。

- ・ソフト面の対策とハード面の対策を併せて行う。
- ・安全管理及び安全教育（防犯）を組織的に実施する。
- ・日常的な防止対策と併せて緊急時の対処ができるようにする。

ソフト面での対策としては、子どもに対する防犯教育（避難訓練等を含む）や保護者への啓発活動などの学校教育に関する対策等が挙げられる。

事例の中に、子どもに対する防犯教育の一環として、「教科や特別活動の中に位置づけられた取組」がみられる。この取組は、日常生活の中に潜む様々な危険を予測し、危険を回避する場所を発見したり、安全な行動のとり方を知ったりできるように、生活科の目標をふまえながら活動されている。その内容は、校区探検を行い、地域の安全に関わる内容を「安全マップ」にまとめ、校内に掲示することで実施学年をはじめ、他の学年の安全意識を高揚させるということであった。

このことは現在及び将来に直面するかもしれない安全に関する課題に対して、適切な意思決定や行動選択ができることにつながるものである。

この他にも、町別児童集会の時間を活用して、校区にある危険な場所を話し合い、その内容を「ヒヤリ・ハッとマップ」にまとめるという取組もみられる。また、「声かけポスター」を作成し、子どもたちと地域住民との顔見知りを増やしていくことで、お互いが声をかけやすい関係づくりを行っている取組もみられる。

このように、「教科や特別活動の中に位置づけられた取組」から出発して、子ども自らが保護者や地域住民に働きかけるという特色ある取組が掲載されている。

次に、日常的な防止対策については、生徒の登下校の時間と児童の登下校時間が重なるため、一層多くの目で「子どもの見守り活動を」という地域からの呼びかけを受け、生徒会が自主的に全生徒に呼びかけ、賛同した生徒が意識して活動している取組がみられる。

このように、生徒会が自主的に地域からの要望に応えたり、地域に働きかけたりする特色ある取組がみられる。

## 2 「開かれた学校づくり」と安全確保

「開かれた学校づくり」を推進するためには、その前提として、学校の教職員や地域住民の学校の安全管理に関する意識を高め、学校や地域の状況に応じた対応を継続的に実施することが必要である。

本冊子の事例として数多く記載されているのが、地域住民の学校の安全管理に関する意識が高まってきていることである。この内容については、学校からの働きかけが中心となっていたが、地域とともに安全について考えていくという地域参画型の取組が事例としてみられる。

具体的には、地域、保護者、教職員等で構成されている委員会で安全・防犯対策について話し合い、その後の具体的な活動の進め方については、関係機関と連携した取組である。

このような地域の意識の高まりは、地域と子どもの関係を一層深め、「子どもは地域の宝」「地域の子は地域で守る」「安全・安心の街づくり」といったような言葉として表れ、積極的な活動が地域全体でみられる。

加えて、活動が継続されるにつれて、地域住民と子どもたちとの関係も深まり、コミュニケーションも「あいさつ」から「なにげない会話」へと変容してきている。

このように、地域住民と子どもたちとのさりげないふれ合いの中から交流が広がり、「無理なく、継続性のある取組」として地域に定着していつている。

## 3 学校安全計画における危機管理

学校安全計画を充実して、日常及び緊急時に具体的に対応できるよう、必要事項や手順を示した危機管理マニュアルを作成する必要がある。これらの作成に当たっては、学校や地域の安全に関する実態、子どもの実態、学校規模、地域の関係機関・団体などの協力体制等の実情等を考慮する必要がある。学校安全計画や危機管理マニュアルは、訓練を継続的に実施し、得られた課題をもとに、より機能するものに改善していくことが重要である。

以上のような学校における安全確保に関する基本的な考え方は、これまで京都市立学校・園がそれぞれの実情をふまえ取り組んでこられた活動そのものである。その基盤には、学校・園の教職員がチームとして子どもを守ろうとしている姿や「自らの命は自らで守る力」を育てるようとする姿が、地域住民や保護者の心に届き、地域のネットワークが次第に形成され、連携という言葉が活動となって現れてきている。今後とも本冊子等を参考にされ、取組を推進していただくことを願っている。

最後に、本事例の作成にあたり、事例を提供していただいた学校・園及び関係各位に対しまして、心より感謝申し上げます。

## 子どもの安全確保・学校防犯実践事例集 II

編集・発行

平成17年3月

京都市教育委員会 体育健康教育室（学校安全担当）

〒604-8091

京都市中京区寺町御池下る下本能寺前町500-1

中信御池ビル6階

TEL 075 (213) 5472

FAX 075 (213) 5476